

# V VISSSEL

No.21

## カレッジ新聞



編集・制作協力

### 神戸新聞社

発行 (株)クリムゾンフットボールクラブ  
神戸市兵庫区御崎町1丁目2番1号  
☎078-685-5510  
印刷 神戸新聞総合印刷

ともに高卒ルーキーとして2010年に加入したFWの有田光希選手とMFの森岡亮太選手。お互い「良きライバル」として強烈に意識し合い、認め合いながら、



□上

成長を続けている。次代のヴィッセル神戸を担う2人に、お互いの評価、自身のサッカー観など、同期同士ならではの本音に迫った。(大倉小百合)

ジョンに入って、シュートゲームでも点を取ると意識するし、公式戦でも亮太のほうがメンバーに入ると試合に出ることも多いので、刺激になりますね。何度も言いますが、僕のほうが先に点を取ります。

—これからの夢や目標を教えてください。

森岡 チームとしては、今シーズン9位以内を目指すことです。個人では、結果を残してさらに上の舞台のヨーロッパで活躍することですね。

—なぜ、ヨーロッパなのですか。また、具体的に目指しているクラブはありますか。

森岡 高校のサッカー部の先生がバルセロナの全試合を録画されていて、高校時代学校のトレーニングルームのようなどころでよく映像を見ていた影響が大きいんです。バルセロナは目標です。

有田 チームとしては、亮太と同じですがキャンプ時に目標を立てた9位以内を目指すことです。個人としては、A契約までに点を決めること。もっと言うと20歳まで(9月23日)に点を取りたいです。

—サポーターの方へメッセージをお願いします。

有田 試合内容が悪い時には、当然ブーイングを受けます。そのブーイングは、もっとできるはずと期待してください。それに応えられるよう結果を出したいです。

森岡 今シーズン、今のところあまり結果を出せていませんが、そういう状況でも試合後に拍手してくださるのは、選手としてとても嬉しいし、モチベーションにもつながり次に挑もうという気持ちにさせられます。これからも変わらぬ応援をお願いします。

有田 練習中から亮太が前のポジ

# 良きライバル 相乗効果

—お互いの第一印象や、プレーしてみて感じたことを教えてください。

有田 同い年ということもあり、一緒にいることが多いのですが、サッカー観は似ていると思います。

森岡 見た目通りのアグレッシブなFWという印象です。また、同年代の中ではシュートセンスが優れていると思います。

—お互いのプレーで特に良いと思うところを教えてください。

森岡 分かりやすくいうとFWとして、何でもできることです。ポストプレーだったり、裏への動き出し、シュート技術、ヘディングなど、FWとして必要なものを兼ね備えています。お互いのプレーのイメージが共有できているので、言わなくても欲しい時にボールを出してくれたりして、息が合いますね。長い時間、一緒にプレーしているから分かりあえることもあるのですが、同期ということで気兼ねなくお互いに言い合うことができることもその助けになっています。

有田 一番は、余裕を持ちすぎているかのようなテクニックがあるところです。ボールを持った時の姿勢や、視野の広さ、そこに出すパスの正確さ。亮太も



## FW有田光希選手 × MF森岡亮太選手 入団2年目、次代のJ1神戸担う

言ったように、年齢が近くてコミュニケーションが取れているから、「ここに出してほしい」というところにボールが出てきますね。

—森岡選手は先日A契約をされ、その時「あくまでも通過点」とおっしゃっていましたが、心境の変化はありましたか。

森岡 A契約になったからといって変化はありませんでした。ちょうど、その時期は、試合に出て、チャンスを得ながらも点を取りきれないことが続いたので、自分としては契約のことより、結果を求めることに意識がいったからだと思います。もちろん、周りからの反応はありました。

—有田選手は森岡選手がA契約し

た時どう思いましたか。  
有田 当然同じ年齢なので、先を越されて悔しい気持ちはありました。ただ、まだ亮太は公式戦で点を取っていません。僕は、A契約になるまでに点を取れるように頑張ろうと思っています。

—両選手はお互いに「良きライバル」とおっしゃっていますが、お互いのどのようところが刺激になっていますか。

森岡 練習でも、有田がいいプレーをするとそれが純粋に刺激にもなるし、何より今は、Jリーグでどちらが先に点を取るかということが、ライバルとして一番意識していることです。

有田 練習中から亮太が前のポジ

## 日本ツアーサービス・横山さん「アウェーツアー」企画 「敵地でも盛り上げよう」

ヴィッセル神戸ではアウェーゲーム開催時に「アウェーツアー」として神戸から対戦チームの試合会場までのバスツアーを行っている。今回この「アウェーツアー」を企画・運営している株式会社日本ツアーサービスの営業部の横山哲広さんにツアーの魅力や雰囲気などについて聞いた。(近藤貴彦)

アウェーツアーの魅力について横山さんは「バスの車内で抽選会などのイベントを行い、ツアーでしか手に入らないグッズがもらえます。一人で来られる女性も多く、一人で来られた人同士が仲良くなったりするところ」と話す。また、バスの強みとして、交通アクセスが悪いスタジアムでも時間を気にすることなく会場までたどり着くことができ、チケットも希望があれば手配をしてくれる点もうれしい。

ポスターを手にポーズをとる横山さん



帰りのバスの雰囲気については「勝つか負けるかで全然違います。勝った試合はテンションも高く盛り上がっていますが、負けた試合は疲れて寝る人が多いですね」という。

参加者の約7割がリピーターで、「アウェーの試合をもっと盛り上げていくためにいろいろな仕掛けを考えたいですね。一度参加してもらえればアウェーツアーの魅力が分かるのでぜひ一緒に行きましょう」と呼びかける。

今年からは、2日にまたがるツアーでは新たな企画も始めている。帰りに銭湯に行き、熱い応援をした後に汗を流しさっぱりして帰るツアーもある。今後は、広島戦と名古屋戦で日帰りツアーを開催する予定。是非、一度アウェーツアーに参加し、対戦チームの本拠地に乗り込んで応援する楽しみを味わってみてはいかがでしょうか。

サッカー女子W杯で世界一になった、なでしこジャパン。この快挙は、日本中を感動で包み、希望を与えてくれた。なでしこジャパンのメンバーのうち7人がINAC神戸レオネッサに所属しており、地元神戸でも大いに盛り上がっている。その中の3人が常連で通っているのが、大安亭市場の中にある精肉店「ミートのマエダ」というお店である。店主の奥藤英和さん(61)に話を聞いた。

(大倉小百合)

# なでしこの胃袋も支える

## 女子W杯優勝メンバーも常連「ミートのマエダ」 奥藤店長「これからも応援したい」

ミートのマエダでなでしこへの想いを語ってくれた奥藤さん

市場に入るとすぐ目に入ってくるのが「祝 世界一 なでしこジャパン いつも大安亭へありがとう」と書かれた垂れ幕。その先を少し歩くと「ミートのマエダ」があった。ここのお店は、澤穂希選手、川澄奈穂美選手、海堀あゆみ選手らが常連だという。

初めて澤選手が店に買い物に来たのは今年1月のこと。「目の前に澤選手が立っていたのでとても驚きました」と奥藤さんは話す。しかし、「余計なことはできない」と思い声はかけなかった。それからも澤選手は何度となく通ってくれたが、黙って応援していたという。

W杯の時は準決勝も決勝も徹夜で見ているという奥藤さん。優勝した時には、興奮がなかなか冷めなかったという。W杯後にはINACの試合をユニバー記念競技場で観戦し、INACの選手層の厚さやレベルの高さを感じたそう。「これからも機会があれば観戦に行きたいし、応援していきたいですね」と語ってくれた。

W杯での優勝後、店は澤選手らが通っていることで有名になった。お客さんからは「テレビ見たよ!」「有名になってるやないか」などと声をかけられるという。テレビ局や雑誌など多くの取材にもいやな顔一つせず、応じている。「良いことなので、気持ちよく取材させてもらっていますよ」と笑顔で語ってくれた。



5月からサンテレビで毎月1回放送されているヴィッセル神戸応援番組の「ヴィッセルスタジアム」。この番組を楽しみにしているサポーターは多いだろう。そこで、番組MCの湯浅明彦アナウンサー(36)にヴィッセルスタジアムへの思いを聞いた。

(大倉小百合)

### サンテレビ「ヴィッセルスタジアム」

## 他局を圧倒する 番組作り目指す

番組MCの湯浅アナに聞く

「サンテレビではヴィッセル神戸に関する番組をずっと作りたと思っていたので、とても嬉しい」と湯浅さん。個人としても、「これまでは野球の仕事がメインだったので、新たにサッカーにも携わる機会をいただき、仕事の幅が広がるという意味でもありがたいです」と話す。

番組作りで心がけていることは、「印象に残るものを作ること」。また、「普段サポーターがなかなか聞けないことも聞くようにしている」という。

番組放送後は、視聴者からハガキなどが送られてくる。特に、すべての得点シーンを放映するところは、好評だという。これは、番組側も意識していることで、「他のスポーツ番組では放送されないようなあまり勝利には影響しない得点シーンであっても必ず放送するようにしているので、そういったところに反応があることは、嬉しいですね」と話す。

今後は「サッカーの奥深さを伝えたい」と話す。また、一人の選手を取り上げるWA

ヴィッセルスタジアムへの熱い思いを語るサンテレビ湯浅明彦アナウンサー



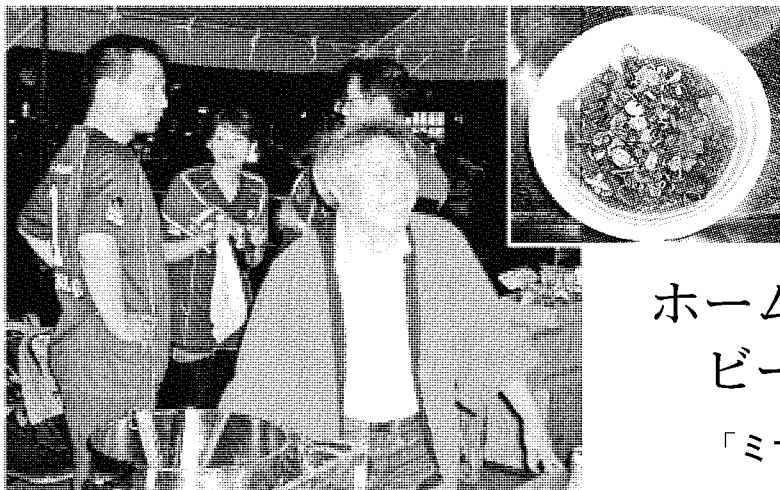
TCH THE PLAYERのコーナーでは今まで取り上げられていなかったような、選手の意外な一面を紹介したいという。そして「なにより長く続けたい」と語る。

湯浅アナや番組に携わっている方の熱い思いやこだわりを知り、私自身、より一層ヴィッセルスタジアムが好きになった。放送は毎月1回金曜日午後11時30分~午前0時まで。次回の放送をお見逃しなく。

## 観戦後 余韻に浸る憩いの場

ヴィッセル神戸の試合終了後、スタジアム場外の一角でサポーターたちの憩いの場になっているのが「ミサキガーデン」だ。ヴィッセル神戸海岸線地域後援会の協力のもとビール、ソフトドリンク、軽食が提供されており、ガーデンのあちらこちらで試合の余韻に浸りながら熱いヴィッセル論議が繰り広げられている。

(城野絢香)



③サポーターたちと談笑する釜須さん④人気のメニュー「牛すじこん」

### ホームズ一角で ビールなど提供 「ミサキガーデン」

かつてホームズスタジアム神戸周辺には、4~5人で入れるお店こそあったものの、大人数で盛り上がる場所はなかった。電車で移動してからお店に行くのではサポーターの熱気が冷めてしまう。そんな思いから、2003年に、スタジアムのお膝元・運南地区を中心に、ヴィッセル神戸を応援する店舗、企業、個人が集まり、ヴィッセル神戸海岸線地域後援会が発足した。そして、翌04年に「ミサキガーデン」がオープンした。

ミサキガーデンの良さはと伺ってみると、「ゲームを見た興奮が冷めやらないうちにヴィッセルのことを熱く話すことができ、今まで出会えなかったような人とも話せる場になっているところではないでしょうか」と後援会の会長を務める釜須一昭さんは話す。

後援会の皆さんによる気持ちのこもった手作りメニューもミサキガーデンが人気を誇る理由の一つだ。そこで、おすすめの商品を釜須さんに紹介してもらった。まずは、「牛すじこん」。牛すじこ

んにゃくを甘辛く煮込んでありネギがたっぷりのっていて、ビールのアテには欠かせない人気メニューだ。初めは大学生が作っていたそうだが、その大学生が辞めることになり今は釜須さんが引き継いで味を守っている。

続いて紹介してもらった品は、「餃子」だ。なんと電気屋さんが作っているそうだが、スタジアムに来てから下ごしらえをし、その場で焼いている。

最後に紹介してもらった品は、「ホームスタせんべい」だ。アウェーのお客さんのお土産としても人気が高い。

釜須さんはミサキガーデンについて、「ヴィッセル神戸のサポーターとアウェーのサポーターが今日の試合はお疲れさまと健闘を称えあうことができ、次の試合に向け英気をみなぎらせる場所になってほしい」と話す。

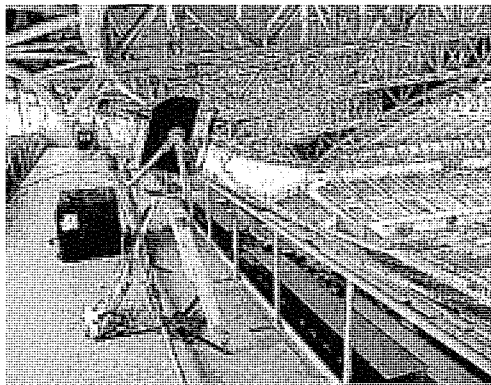
ホームゲーム観戦後の余韻を「ミサキガーデン」でサポーターとトモニ、ゆったり楽しんでみては。

## リーグ全試合を収集、分析

試合中にどの選手がどれくらいボールを保有したかや、長い距離を走ったかといったデータがメディアで取り上げられるようになった。こうしたさまざまなデータを調べているのが、2008年からJリーグのオフィシャルデータサプライヤー契約を締結しているデータスタジアム株式会社だ。Jリーグの全試合のデータを収集、分析し、提供している。今後のデータの活用法やデータから見るヴィッセル神戸について、サッカー事業部マネージャーの檜山竜太郎さんに伺った。(近藤貴彦)

檜山さんによると、サッカーで提供しているデータは三つあるという。

一つ目は、パス、トラップ、ドリブルなど選手がいかにボールに触れたかをみるボールタッチベースのデータだ。ビデオをワンプレーごとに止めて入力する根気のいる作業で、一試合あたり約2000項目ものデータを収集しているという。



選手の動きを分析するためカメラでデータを収集

# データが語るJの雄姿

## ボール保有率 走行距離など

データスタジアム社

二つ目は、選手の走行距離やスピードなどがわかるオフ・ザ・ボールの動きのデータ。これは同社がスウェーデンの企業と提携し、リアルタイムにピッチ上の選手、ボール、審判を含めたデータをカメラで追いかけている。このデータは昨年開かれた南アフリカW杯でも利用され、選手の試合への貢献度を測るデータとして知られるようになった。

現在Jリーグではテスト段階で、来年の本格運用を目指しており、「今後中継や記事などに活用が期待される」という。

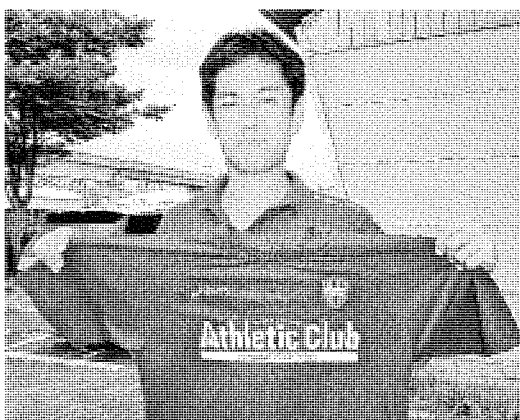
三つ目はフランスのSports Universal Process社の「Amisco」というデータだ。これはチームが独自に試合の分析に使いたいデータを提供するサービスで、欧州の強豪クラブで採用されている。

では、データから浮かび上がるヴィッセル神戸の特徴はどのようなところにあるのだろうか。「数字からとらえるとシュートが決まる率が他チームに比べ劣っており、決定力にやや欠ける面があります。高い位置でボールを奪ってからカウンターで少ない人数で早く攻撃する割合が高く、クリアの数が多いことも特徴です」。

また、最もパスを出しているのは田中英雄選手で、パスを最も受けているのはポッティ選手とのこと。5プレー以内にシュートにつながるパスは大久保選手が多く出しており、受け手も大久保選手が多く、やはり攻撃の中心は大久保選手であることがデータでも分かるそうだ。今日の新潟戦も、高い位置からボールを奪って大久保選手を中心に素早い攻撃でゴールネットを揺らすことができるのか。期待が膨らむ。

## 走る楽しみ知り、成長を

「スポーツに通じる運動能力は走ることから！」という活動理念のもと、今年5月、ヴィッセル神戸アスレチッククラブが開校した。設立にかかわったのは、100歳の日本記録保持者で現在甲南大学准教授を務める伊東浩司さん。「子どもたちがスポーツを楽しめる環境を整え、神戸の子どもたちの心技体の成長につながれば」と抱負を語る。(中尾浩介)



ヴィッセル神戸アスレチッククラブのユニフォームを持つ伊東さん

### ヴィッセル神戸 アスレチッククラブ開校

#### 伊東浩司さん熱い期待

伊東さんは、1992年のバルセロナを皮切りにアトランタ、シドニーのオリンピックに連続で出場し、98年アジア大会100歳準決勝で10秒00の日本新記録を樹立した経歴を持つ。現在は、甲南大学陸上部監督として学生を指導する一方、神戸市教育委員を務め、神戸の陸上界、スポーツ界の発展に向け、提言を行っている。伊東さんが今、最も心配していることは、神戸市の学校で陸上部の数が減少傾向にあることだ。少子化に加え、指導者不足のため学校の受け皿がないことに起因する。「陸上の競技人口は変わっていません。生徒の需要に見合うだけの数のクラブがないため、陸上をしたくてもできない状態です」。子どもたちを取り巻くそのような環境を見過ごすことはできない。「ピラミッド型の古い体制を壊さないと状況は変わりません。一握りのトップクラスの選手だけではなく、多くの人々がスポーツを楽しめるよう、新たな良い循環を作り出したい」と意気込む。

スポーツの発展に懸ける伊東さんの気持ちと、スポーツで幸せな街をつくるという理念を持つヴィッセル神戸の叶屋社長の思いが重なり、今回のヴィッセル神戸アスレチッククラブの設立につながった。

サッカーという切り口からの陸上やスポーツの振興への貢献は、今までの陸上界には無い新たな取り組みであり、伊東さんの「ピラミッド型の古い体制を壊す」ということに当てはまる。

クラブの指導は甲南大学女子陸上部の部員も一緒に行っており、クラブにかかる伊東さんの気持ちは熱い。「走ることは全てのスポーツの根幹です。スポーツとしての走りの技術を学んでほしいですね。走ることを習得することによって、陸上のみならず、これからのスポーツ人

生につなげてほしいというのが伊東さんの思いだ。

大学の陸上部員を練習会の指導に参加させることもクラブならではの特色の一つだ。「トッププロのチームの中に関わることで、競技のみならず、スポーツに関する様々な事を学ぶことができ、彼ら、彼女らの成長につながると期待しています」。クラブでは、協賛企業である株式会社明治や株式会社アシックスからドリンクボトルやユニフォーム等の用具の提供を受けており、そうしたことを現場で体験して初めて協賛企業のありがたみが理解できるなど、学べることは多い。

「陸上界にとどまらず、百年構想の理念の下に素晴らしいビジョンを持つJリーグとのタッグは大きなチャンス。特にヴィッセル神戸は地域密着を掲げ、神戸では圧倒的なインパクトを持つトップチーム。飽くなき向上心と、無限の可能性を持つヴィッセル神戸とともに、神戸のスポーツ界を盛り上げたいですね」。未来の神戸を背負う子どもたちが夢に向かって「走り出せる」ように、伊東さん自身も神戸というフィールドで「走り続ける」つもりだ。

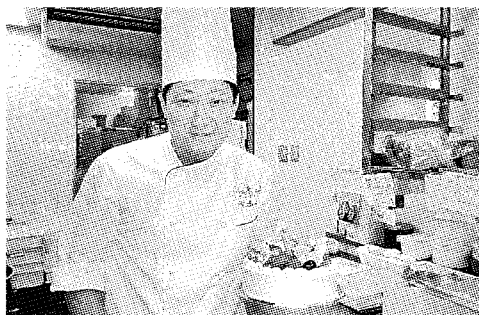
### オフィシャルスポンサー「レーブドゥシェフ」佐野社長

#### 「選手らの姿勢」社員教育に一役

ケーキ工房レーブドゥシェフ(神戸市垂水区)のオーナーシェフを務める佐野靖夫さんは、社員とコミュニケーションをとる達人だ。白衣をまとった時に見せる鬼のように真剣な表情と、子どものようなあどけない無邪気な笑顔を併せ持ち、ヴィッセル神戸のオフィシャルスポンサーとして、社員と一体になりながらスタジアムで声援を送っている。(中尾浩介)

佐野さんは、第21回スプラウト洋菓子デザインコンテスト東京優秀技能賞を皮切りに、数多の賞を獲得後、2010年には神戸市から神戸マイスターにも認定されている。

職人として経営者として社員に熱い思いを伝えている佐野社長



優れた技量だけでなく、熱く大きな人柄を慕って、多くのケーキ職人の卵が佐野さんの門を叩く。そんな佐野さんの人材育成法は「人前でも社員を真っすぐに躊躇なく叱ることだと言う。

こう聞くと、現代の若者には合わないと思うかもしれない。しかし、

これは佐野さんの社員に対する深い愛情に起因する。佐野さんは言う。「ぼくは、社員本人ではなく、社員ができなかった事柄を叱っているんです。つまり、あなたは優秀だが、そんな優秀なあなたがどうしてこのような出来のものを作るのか、と問うているのです」

叱られ方を理解することで、社員は自分への期待値や存在価値を確認できる。佐野さんが何について叱ろうとしているのかビジョンが明確になり、周りの人間も佐野さんの言わんとすることが同時に正確に確認できる。お客様に感動を与えるため、一切の妥協を許さない佐野さんの姿勢に、社員は全幅の信頼を置いている。

佐野さんは社員とコミュニケーションをとることを最も大切にしている。ヴィッセル神戸をオフィシャルスポンサーとして応援することも、その手段の一つだ。社員と横並びに座り、気迫あふれるプレーに一喜一

憂する。「時に肩を組んで喜び、時にともに肩を落として泣きます」。そんな熱い師匠と弟子の関係を築くことが、佐野さんのスタイルだ。

「たとえ負けた試合でも、サポーターに感動を与えられる試合があると思う」。ヴィッセルを応援し続ける佐野さんがたくさん試合を見て感じていることだ。

阪神・淡路大震災が起きた1995年、オリックス・ブルーウェーブが日本一になったこと。東日本大震災が起きた今年、ベガルタ仙台が開幕から13試合負け無しの快進撃を見せたこと。そして、なでしこジャパンの歴史的快挙。そこには、「見えない力」が存在する。誰かのために、人は頑張れる。ヴィッセル神戸も闘志あふれるプレーでサポーターに夢を与えてほしい。ヴィッセル神戸の選手があきらめないで闘う姿は、そのままレーブドゥシェフの社員たち働く姿勢にも影響を与えているにちがいない。

# ボールキープの強さ発揮する。

今季途中、ヴィッセル神戸に加入した韓国出身のペ・チョンソク選手(21)。身長187センチ、体重80キログラムの大型FWで、今年は、U-22韓国代表・ユニバーシアード韓国代表に選ばれた将来を期待される選手だ。ペ・チョンソク選手に、ヴィッセル神戸の印象や自身のことについて話を聞いた。  
(城野絢香)

## ■新戦力期待のFW ペ・チョンソク選手(21)



—初めてのプロのキャリアをなぜヴィッセル神戸でスタートしようと思ったのですか？

クラブから声をかけてもらいました。もちろん日本でプレーすれば自分のレベルアップのためになると思ってヴィッセル神戸を選びました。

—ヴィッセル神戸の印象を教えてください。

すごくチームの雰囲気もいいし、優れた選手たちがそろっています。コーチングスタッフの方々のレベルも高く、とにかくチームの雰囲気がいいと感じています。

—Jリーグの印象を教えてください。

ファンの方々がみんな熱狂的で、すごく情熱的に応援してくれるイメージがあります。

—尊敬する選手は？

元柏レイソルのファン・ソンフオンです。(現在、Kリーグ浦項で監督)

—サッカーとの出会いは？

サッカーを始めたのは小学4年生の時です。もともと陸上をはじめ別のスポーツをしていたのですが、

足が速かったために、それを見ていた小学校の先生や監督が、「サッカーをやってみないか？」と誘ってくれたのが一つのきっかけで

す。韓国では結構よくあることです。

—小さい頃の夢は？

そのころからすでにワールドカップに出たいという夢を持っていました。

—サッカーを始めたころからFWでしたか？

はい。そうです。サッカーはゴールを決めることが最大の目的です。自分がゴールできれば嬉しいし、チームももちろん勝つことができます。ゴールでチームを勝利に導けることが喜びですし、そこにFWの魅力を感じています。

—ペ・チョンソク選手のプレーの強みは？

ボールキープすることが得意です。ゴール前でとくに強さを発揮できると思っています。

—これからの個人の目標、抱負を教えてください。

まずは、神戸で、しっかり得点をして、結果を出してチームに貢献することが第一です。その次の目標として、ちょっと大きいですけれど、チャンピオンズリーグなどに出られるようなチームに行きたいですし、そのような大きな試合に出場できるようにしたいですね。

—サポーターへメッセージをお願いします。

いい姿を、みなさんに見せられるように頑張りますので、応援よろしくをお願いします。

# はやくチームに貢献したい。

## J1神戸の「今」を伝えます

公式携帯サイトの人気コラム「いぶき日記」

ヴィッセル神戸の公式携帯サイトには、叶屋社長の「常に改善、常に前進」のコーナーや「強化部のレポート」、さらには選手の連載など、たくさんのコーナーがある。その中で、今回は練習場での出来事など、選手の素顔を垣間見ることができる人気の連載コラム「いぶき日記」の

舞台裏をのぞいてみた。(城野絢香)

「いぶき日記」は、練習のある日は毎日更新されており、練習中の選手のコンディションや選手への取材の様子などがつづられている。日替わりでさまざまな選手に焦点が当てられ、選手の日常の素顔をうかがい知ることのできる貴重な情報が載っ

ている。それだけにファンからの注目度も高いが、実は、選手の間でも人気のコーナーで、いぶき日記の話題で選手が盛り上がることも多いのだとか。

実は「いぶき日記」にはバックナンバーがない。ヴィッセル神戸の選

手の、今を伝えたいという思いからだ。それだけに、日々更新される情報は見逃せない。

練習風景やいぶきの森での選手の出来事などを知りたいのなら、携帯サイト「いぶき日記」へアクセスしてみたいだろうか。

## ヴィッセルカレッジ学生取材を終えて

### 書く楽しさと大変さ知った

初めてのカレッジ新聞の制作にあたって、記事を作る楽しさや大変さを知ることができたので、新聞に携わっていただいた全ての方に感謝しています。この新聞が、一人でも多くの方に見ただけたらと思います。

(大倉小百合)

### 多くの人々の協力得て発行

ヴィッセルカレッジ新聞No.21の取材を終えて、私自身、何もかもが初めてだったので不安がたくさ

んあった。素材探し、取材、執筆の難しさを痛感した。ヴィッセルカレッジ新聞は、あらためて皆さんの人の協力があり出来ることがわかった。

(城野絢香)

### 初体験に緊張やりがい実感

取材のアポを取るにしても、やったことがなく緊張したし難しかった。取材も予想していたような回答が得られなかったり、思った通りには行かなかったが、いろんな話を聞けたり貴重な経験ができやりがいがあった。

(近藤貴彦)

ヴィッセル神戸 公式携帯サイト <http://mobile.vissel-kobe.co.jp/>

# VIKING

平日ほぼ毎日更新の公式携帯サイトで最新のヴィッセル情報をゲットしよう!!

**いぶき日記** 人気コンテンツ  
練習のある日は、ほぼ毎日更新!!練習中の風景や、練習後の選手の思わぬ一面など、ヴィッセル神戸の「瞬間」を切り取った人気コンテンツです。

**最新試合テキスト 実況**  
試合の様子を細かくテキストで実況します

**インタビュー**  
注目選手や監督などのインタビューをお届け

**選手コーナー**  
ここしかわからない選手の素顔を紹介!!

**キッチンメール**  
@三木谷川2  
育成拠点での出来事を配信!!

他にも楽しいコンテンツが盛りだくさん!!

情報料 無料 一部有料 315円/月

アクセス方法 QRコード、もしくはキャリア別に下記方法でアクセス!! 各社共通QRコード

IMENU → メニューリスト → 趣味/スポーツ → スポーツ → サッカー

EZトップメニュー → etailメニューリスト → 趣味・娯楽 → スポーツ/レジャー → サッカー

(Yahooケータイ) → メニューリスト → スポーツ → サッカー